



元福小だより

No.4 令和7年6月30日

ふじみ野市元福岡3-15-2 TEL 264-5402 FAX 266-2796
E-mail motofukusho@fujimino.ed.jp



記録すること、記憶すること

校長 木内 芳仁

「記録より記憶に残る選手になりたい。」

スポーツ選手のこのような言葉を耳にした記憶があるという方も少なくないのではないのでしょうか。私も、誰が言ったかまでは記憶してはいませんが、誰かが言っていた記憶があります。まさにこの状況も、記憶の曖昧さを物語っている1つの事象のようにも感じます。

この場合の「記録」とは、よい結果や成績の意味で使われている言葉だと推察します。しかし、「記録」という言葉には別の意味もあり、学校生活で考えると、結果や成績というより「書き記すこと」を意味して使うことの方が多くのように感じます。学校生活における「記録より記憶か」、反対に「記憶より記録か」。このことについてあらためて考えてみた時に、日々の教育活動の中で子供たちは多くの「記憶」と「記録」を繰り返していることに気付かされました。

6月中旬から全教員が1人1時間授業を公開し、管理職等による授業参観を実施しており、先日、1年生の算数の授業を参観しました。その授業は、「ある場面を見て、ひき算で答えを求めることができることに気付き、ひき算の式に表す」という内容でした。子供たちは、それまでの学習経験からひき算になることをすぐに理解し、担任の説明を聞きながらノートに式を書き書いていました。ノートに式を書くこと。これは「記録」としてノートに残ります。そしていつでも見返した時に、この「記録」をもとに学習したことを思い出し、振り返ることができます。みんなが学習内容をよく理解していることに感心しました。ただ、この時間にいちばんに感心したことは、このことではありません。なにより感心したのは、入学したばかりの時に比べ、全員に学習の約束がしっかりと身に付いていたことです。姿勢よく椅子に座り、担任をしっかり見て話を聞き、集中して学習課題の解決に取り組んでいました。この時の学習態度は、書くこと（記録）で身に付いたものではありません。入学してから毎日、担任の指示を聞いて取り組んできた結果、何をすべきかを学習（記憶）し、できるようになった姿だと言えます。

はじめに、「記録より記憶」という言葉を挙げさせていただきましたが、「記録すること」と「記憶すること」は、子供に限らず大人にとっても、どちらかではなくどちらも重要だと言えます。ただ、記録したことは仮に忘れたとしても見返すことで思い出せるのに対し、記憶については、脳の特性上時間とともに薄れていくため、記憶を保つためには繰り返し学習することが必要だと言われています。今後も子供たちが、自分を成長させるために「記録すること」と「記憶できるようにするために繰り返すこと」のどちらも大切にしたい教育活動を行ってまいります。

7月18日で1学期が終了し、19日からは37日間の長い夏休みに入ります。この間、子供たちはご家庭での生活になります。今年の気候を考えると、平年以上に暑い夏休みになることが予想されます。ぜひ、心身のリフレッシュを図るとともに、体調管理にも十分お気をつけいただけたらと思います。また、夏休みであっても、子供たちが1学期に身に付けたこと（記憶）を忘れず、時々、ノートやワークシート、タブレット端末に保存した情報（記録）を見返すなど、2学期を意識した生活が送れるよう、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。